

ひと

がんサバイバー支援で全国行脚した

かきぞえ ただお
垣添 忠生 さん(77)



がん医療の拠点を訪ね歩き、23日、目的地の札幌に到着した。総移動距離3500キロ。 「ゴールした時、大きな達成感をおぼえた。やってよかった」

がんの専門医。2007年まで5年間、国立がんセンター(当時)総長を務め、がんの征圧をめざす日本対がん協会の会長に。自らも大腸がんと腎臓がんを経験

し、07年には妻をがんで亡くした。「がんのあらゆる局面に立ち会った私だから、と思いを明かしてくれた人がいた」

歩く先々で患者と交流。「担当医とうまくいかない」「うつになった」。切実な声に耳を傾けた。

がんと診断される人は国内で年間約100万人。だが信頼できる情報にたどりつけない患者も多い。寄付を募り、患者や家族らが必要とする情報をもっと届けたい。反対もされたが「決めたらやる」と行脚に出た。

妻の死の悲しみを癒やそうと、15年夏以降に四国の霊場を歩いた経験が背中を押した。奥日光にハイキングに出かけた時の妻の写真を今回も携え、「元氣だよ」「無事宿に着いた」と語りかけた。

患者や経験者への支援に、死別後の悲嘆のケア、在宅医療の充実と、やりたいことは尽きない。

「残された人生、自分の経験を世の中に還元していきたい」。健康のため、腹筋500回、背筋100回などを毎朝欠かさない。

文・辻外記子 写真・白井伸洋